

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙 4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	870301181		
法人名	株式会社 マツウラ		
事業所名	グループホームきらめき2		
所在地	土浦市右新宮塚2746 (電話) 029-843-1991		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年4月17日	評価確定日	平成20年9月12日

## 【情報提供票より】 (平成20年3月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1,2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	22,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年3月5日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82.9 歳	最低 62 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は利用者の主体性を重視し、生きがいをもって安定した生活ができることを第一に考え、サービスの質の向上に努めている。  
職員オリジナルの「きらめき体操」や散歩・カラオケ・絵がき作りなど、数多くのレクリエーションを行ったり、玄関前にあるレジャーテーブルでおしゃべりやお茶飲みをしながら外気浴や散歩を楽しむなど、心身のリフレッシュや生活に張りをもたせるケアを行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 個別記録や介護計画の見直し、必要書類を作成するなど改善をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者はサービス評価の意義・目的を理解するとともに、全職員の意見を聞き自己評価を作成している。 朝礼時やサービス会議の場において、外部評価の内容について討議し、ホームの課題分析をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の家族・行政・地域住民などの構成により定期的に運営推進会議を開催している。 運営推進会議でだされた課題を職員間で話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。 月に1度介護相談員の受け入れや介護保険更新手続き等で、行政の担当者と意見交換や相談をしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の状況の変化に応じ、随時電話で家族に連絡しているが、電話のみの報告に留まらず利用者の暮らしぶりや職員の異動等について掲載した広報誌を作成し、請求書とあわせて家族に報告することを期待する。 意見ノートを設置するだけでなく、家族の来訪時には職員は声を掛け、希望や意見を聴取している。 今後家族会を発足するとともに、家族が気軽に集まり、意見交換できる場面づくりを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の運動会・夏祭り・カラオケ大会などに積極的に参加するとともに、中学生の職場体験の場としてホームを開放し、地域の人々との交流に努めている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を行うとともに、利用者がホームで生きがいを感じてもらえるよう、利用者の主体性を重視した生活支援を行うという理念を新たに構築した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所に理念を掲示している。 また、朝礼時やケアカンファレンス時など折に触れ、理念の意義を確認するとともに、具体的なケアの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や夏祭り、カラオケ大会などに積極的に参加するとともに、中学生の職場体験の場としてホームを開放し、地域の人々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義・目的を理解するとともに、全職員の意見を聞き自己評価を作成している。 外部評価の結果をミーティング時に報告し、具体的な改善について話し合っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族・行政・地域住民などの構成により定期的に運営推進会議を開催している。 運営推進会議でだされた課題を職員間で話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度介護相談員の受け入れや介護保険更新手続き等で、行政の担当者と意見交換や相談をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況の変化に応じ随時電話で家族に連絡をしている。 職員の異動については徹底した報告をしていない。	○	電話のみの報告に留まらず利用者の暮らしぶりや職員の異動等について掲載した広報誌を作成し、請求書とあわせて家族に報告することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見ノートを設置するだけでなく、家族の来訪時には必ず職員は声を掛け希望や意見を聴取している。	○	今後家族会を発足するとともに、家族が気楽に集まり、意見交換できる場面づくりを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者本位の支援を最優先にし、職員の配置や異動を行っている。 職員の交代が生じる場合は必ず事前に顔合わせや申し送りをして利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成計画は作成されておらず、研修をほとんど実施していない。	○	運営者は職員の経験に応じた内・外部研修計画を作成し、職員が意欲をもって仕事に取り組める体制づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に加入し管理者間の交流はしているが、職員間の交流はしていない。	○	職員間同士の交流を深め、他のホームとの合同研修や意見交換会などを企画・開催し、サービスの質の向上を目指した取り組みを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に必ずホームの見学を行っている。 急なケースにおいても必ず事前に利用者や家族と面談を行い、十分な話し合いを行ったうえで双方が納得してから利用を開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの畑で野菜作りを一緒に行ったり下膳・洗濯・掃除など、職員は利用者とともに支えあいながら生活をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の日々の言動・苦情から一人ひとりの希望にそった支援をしている。本人の意向が把握しにくい場合は家族から情報を得よう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を取り入れたうえで、職員全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っている。また、利用者の希望や健康状態の変化に応じ、柔軟に介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・通院介助・行政への事務代行等、利用者や家族の要望に応じた支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の安定した健康状態を維持するため、定期的な往診や年に1度の健康診断を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	24時間対応可能な協力医療機関を確保しているが、重度化や終末期に向けた方針やマニュアル作成等をチームで話し合うまでには至っていない。	○	重度化に伴う意思確認書やマニュアル等を作成し、「看取りに関する指針」をチームで話し合う機会をもつことを提案する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの尊厳を第一に考え、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。 記録等の個人情報は事務室で一元的に管理し、情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の主体性を大切に、できるだけ希望にそった支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は音楽をかけて会話を楽しみながら職員とともに食事を摂っている。 利用者のできる範囲で職員と一緒に下膳や後片付けなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に火曜日・木曜日・土曜日（1階は午前・2階は午後）と決まっているが、本人の希望や体調にそって柔軟に支援をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り・裁縫・草履作り・絵はがき作りなど、利用者の経験や知恵を発揮できる場面づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に注意を配りながら、外気浴や散歩を楽しんでいる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1日を通し居室の窓は全て施錠している。	○	利用者一人ひとりの外出・徘徊パターンを把握し、窓に鈴を付けるなどの工夫をこらして、可能な限り窓の開閉ができる環境づくりを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防機関に通報する火災報知設備を有し、点検も行っている。 有事に備えた避難訓練を消防署の指導のもとに行っている。 本年度は10月に地域の人々と一緒に避難訓練を計画している。	○	有事に備え水・食料・毛布などを備蓄しておくことを期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態を配慮した食事量・調理方法を取り入れている。 食事や水分の摂取状況は毎日チェックするとともに記録に残している。	○	定期的に専門家の意見を取り入れた献立作成が望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に季節にあった絵の作品を飾るとともに、玄関には四季折々の生花を飾っている。 食堂の椅子が高く、床に足がつかない利用者には発泡スチールの足台を置くなど、足が疲れないよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して使い慣れた家具・机・仏壇・テレビなどが持ち込まれている。 壁に家族の写真や絵などを飾り、利用者が居心地良く過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。